

小学生の愛着と自尊感情および友人関係満足度との関連

小川 真理・糸井 尚子
（東京学芸大学）

【問題と目的】

愛着理論をもとに児童の自尊感情および友人関係についての研究を行った。愛着理論では、母子関係に着目されることが多かったが、小学生にとって生活時間の大部分を過ごすのは学校である。そのため、学校や学級に愛着を抱くかは、児童の自尊感情の形成や友人関係満足度に影響を及ぼすことが予想される。これらの関連が明らかになれば、子どもの学校不適応や自尊感情の低下の問題に対する示唆が得られるのではないだろうか。

本研究では、小学生を対象として、①自尊感情の形成と愛着との関連、②友人関係満足度と愛着との関連の2点を明らかにすることを目的とする。

【方法】

対象：小学生 5 年生

期間：2012 年 9 月～11 月

質問紙：

- ①『子ども用 5 領域自尊心尺度』（Pope, Mchale, & Craighead, 1988）
- ②『学校に対する愛着尺度』（奥野、藤本、鎌倉、糸井, 2008）
- ③『絵画愛情の関係検査（Picture Affective Relationships Test: PART）小学生版（高橋 1978/1989）
- ④『友人関係満足度尺度』（豊田, 2004）

【結果と考察】

1、学校愛着と自尊感情および友人関係満足度の相関

学校愛着と自尊感情において、ピアソンの積率相関係数を求めたところ、 $r=0.67$ であり、1%水準で有意な関係がみられた。また、学校愛着と友人関係満足度において、ピアソンの積率相関係数を求めたところ、 $r=0.73$ であり、1%水準で有意な関係がみられた。

2、家族愛着と自尊感情および友人関係満足度の相関

家族愛着と自尊感情において、ピアソンの積率相関係数を求めたところ、 $r=0.05$ であり、有意な関係はみられなかった。また、家族愛着と友人関係満足度において、ピアソンの積率相関係数を求めたところ、 $r=0.12$ であり、有意な関係はみられなかった。

3、友達愛着と自尊感情および友人関係満足度の相関

友達愛着と自尊感情において、ピアソンの積率相関係数を求めたところ、 $r=0.26$ であり、有意な関係はみられなかった。また、友達愛着と友人関係満足度において、ピアソンの積率相関係数を求めたところ、 $r=0.45$ であり、1%水準で有意な関係がみられた。

4、平均値の比較

「病気の時、誰にそばにいて欲しいか」という項目について、母親選択の有無間で自尊感情と友人関係満足度それぞれについて t 検定を行った。自尊感情では母親選択群と母親無選択の間に 5%水準で有意な差がみられた ($t(32)=-2.14, p<.05$)。しかし、友人関係満足度では有意な差はみられなかった ($t(32)=-0.81, n.s.$)。

「嬉しい時、誰に伝えたいか」という項目について、母親選択の有無間で自尊感情と友人関係満足度それぞれについて t 検定を行った。自尊感情では母親選択群と母親無選択の間に 5%水準で有意な差がみられた ($t(32)=-2.41, p<.05$)。しかし、友人関係満足度では有意な差はみられなかった ($t(32)=-0.44, n.s.$)。

以上の結果より、小学校高学年の児童において学校への愛着は、自尊感情や友人関係満足度と最も関連していることが示された。